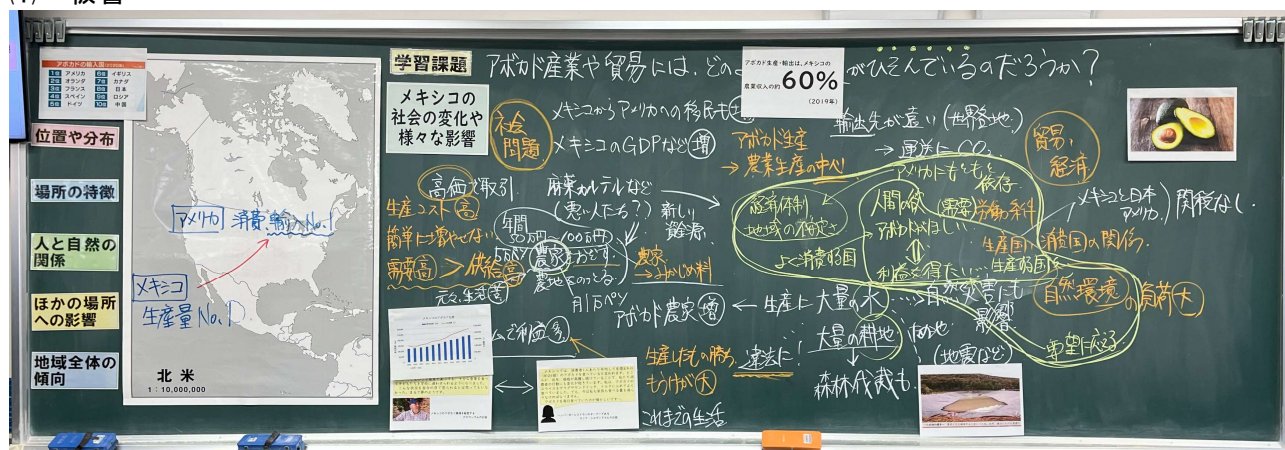


授業の成果と課題

1 授業の実際

(1) 板書



(2) 生徒の学びの実際

本時の学級集団での練り合い高め合いを通して生徒が見いだした「課題」についての記述例を以下に示す。下線部は、授業者が地理的な見方・考え方を働かせていると捉えた部分である。

- 私は、「アボカド」を通してどちらかが得をすればどちらかがとても損をするという偏りのある関係が多く存在しているという課題が見えてきました。そして、この課題を解決するためにはこのような課題のある国同士が妥協し合わなければいけないと考えました。また、対等な立場で関係を保っていく必要があるとも考えました。なぜなら、アメリカとメキシコのように、アメリカに依存しているといえるメキシコだからこそ、このような事態が生じているからです。
- 課題は、アボカドなどの食べ物の需要が高まってきて、それに生産者が頼ってしまうことです。例えばメキシコの農業はアボカドに頼って盛んです。これは、アボカドの世界的需要が高まり、よく売れるようになったからです。しかしこれには問題が考えられます。それは、需要の変化によって大きく振り回されてしまう点です。今、アボカドはとても需要が高まっていますが、それがいつ減少するか分かりません。もし需要が低下してしまった場合、メキシコの収入が大きく減少するわけですから、大打撃を受けること間違いなしです。このように、メキシコだけでなく、世界中の生産者の人たちは世界需要に振り回されているので安定的ではありません。

2 成果 (○) と課題 (●)

(1) 地球的課題に対して「切実性」を実感できる単元構成の工夫

- 授業後のアンケートで、「この授業で学んだ内容が、地球的課題に対して自分がどのように関わり、貢献できるのかを考えるきっかけになりましたか」という項目について、9割以上の生徒が肯定的な回答を示した。授業を通して、社会で起こっている事象を「みんなにとっての問題」だと捉え、生徒に切実性を実感させることにつなげることができたといえる。
- 授業後のアンケートで、「この授業を通して、あなたは関連する他分野や他教科の学習に対して興味・関心を高めたり、学習の必要性を感じたりしたか」という項目について、半数以上の生徒が肯定的な回答を示した。今の自分が知らないことは何か、これから自分が何を学ぶ必要があるのかなどを自己分析し、学びの意義を見いだそうとする生徒が増加した。
- 既習の六つの州の学びを生かして追究・考察できなかつたり、「課題」が自分ごととして捉えることができていなかったりする生徒がいた。単元構成や外部人材の活用など、社会の問題を自分ごと化する手立ての工夫・改善が必要である。

(2) 「協働する他者」や「自己調整を促す手段」としての生成AIの活用

- 授業後のアンケートで、「生成AIやICTを活用することで学びを深めることができたか」という項目について、8割以上の生徒が肯定的な回答を示した。特に、生成AIについては、多種多様な級友の意見を要点整理したり、自分たちだけでは思いつかない視点を提示してくれたりすることに有用性を感じている生徒が多かった。
- 生成AIの提案する情報に流されてしまい、生徒自身が批判的に思考し、考えを深めることがおろそかになることがあったので、今後、適切な活用方法やタイミングを検討していきたい。